

展示公開施設の館内環境調査報告—平成9年度—

佐野 千絵・三浦 定俊

保存科学部は博物館・美術館・資料館などの文化財公開施設で、借用など移動を伴う国指定文化財等の展示があるときに、当該施設の館内環境調査を文化庁美術工芸課と協力して行っている。その調査の内容については以前に述べたが¹⁾、平成5年度からは各館ごとに館の規模や施工時期などについて、あらかじめ定まったフォーマットに従って整理をしている。平成5年度～8年度についてはすでに報告したので²⁻⁵⁾、ここでは平成9年度に行った館内環境調査に関して概括する。

集計方法などについては、前報と同じである²⁾。相談件数および相談館数の経時変化、相談館の地域分布、開館時期、借用計画をたてた時期、調査期間について図示する(図1～6)。また、平成9年度に報告書を書いた23館の基礎データを表1に記す。

1. 相談館全体の傾向

相談件数および相談館数については、図1のとおりである。博物館・美術館の新設そのものの件数が少なくなり、相談件数総計は昨年より減少して983件であった。

相談館の地域分布も、昨年に引き続き、中国・四国地方や東北・北海道地区の公開施設が増え続けている点が特徴である(図2)。

表1 調査館の基礎データ

No.	着工	コンクリート打設	竣工	開館	借用時期	延べ床面積(m ²)	展示面積(m ²)	収蔵庫面積(m ²)	博/美	運営母体
1	不明	不明	1980. 3	1981	1997. 11	369	88	126	博	その他
2	1928	不明	1935	1967	1997. 9	505	不明	不明	美	区
3	1974. 8	不明	1977. 6	1977. 7	1997. 8	9072	2,842	810	美	県
4	1979. 11	不明	1980. 3	1980. 11	1998. 4	789	400	150	博	市
5	1981. 1	不明	1981. 10	1981. 11	1997. 9	871	353	29	博	市
6	1982. 8	不明	1984. 5	1984. 11	1997. 1	6,212	601	99	博	市
7	1990. 1	不明	1991. 4	1992. 4	1997. 9	3,062	480	73	美	町
8	1991. 3	1992. 8	1993. 3	1993. 11	1998. 1	11,723	1,899	589	美	県
9	1992. 12	1994. 2	1994. 9	1994. 11	1997. 5	17,240	5,205	2,700	博	県
10	1992. 12	1995. 12	1995. 12	1996. 1	1997. 7	17,762	4,220	1,750	美	県
11	1993. 10	1994. 8	1995. 3	1995. 9	1998. 2	3,602	1,334	318	美	市
12	1993. 3	1994. 5	1995. 3	1995. 4	1997. 8	1,421	479	277	博	町
13	1994. 4	不明	1996. 8	1997. 11	1997. 9	20,780	不明	583	博	その他
14	1994. 5	1995. 5	1996. 3	1996. 4	1997. 7	5,476	190	不明	博	町
15	1994. 8	1995. 4	1996. 3	1996. 4	1997. 11	3,177	830	不明	博	市
16	1995. 11	1996. 8	1997. 3	1997. 11	1997. 11	5,795	1,445	293	美	県
17	1995. 12	1996. 7	1997. 2	1997. 4	1997. 12	5,360	476	52	美	その他
18	1995. 12	1995. 9	1997. 2	1998. 5	1998. 4	1,088	525	130	博	市
19	1995. 12	1996. 1	1997. 5	1998. 3	1997. 11	1,393	344	53	美	その他
20	1995. 2	1995. 12	1996. 7	1997. 10	1998. 3	4,359	1,180	389	美	市
21	1995. 9	1996. 3	1997. 3	1998. 3	1998. 2	2,302	558	392	博	その他
22	1996. 1	1996. 8	1997. 3	1998. 4	1998. 3	1,671	303	210	博	その他
23	1997. 6	不明	1997. 1	1997. 11	1997. 11	1,003	124	456	博	県

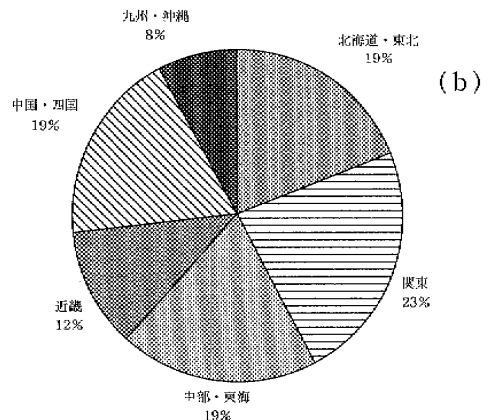
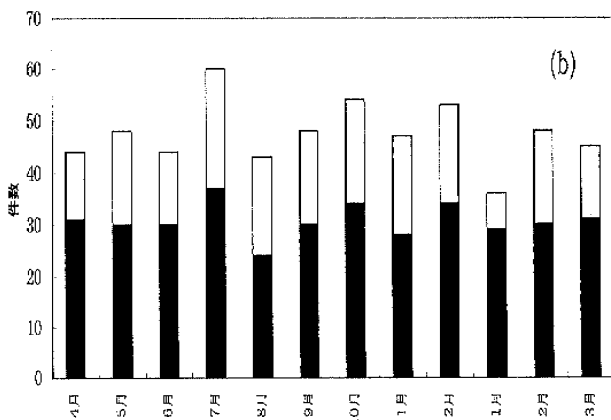
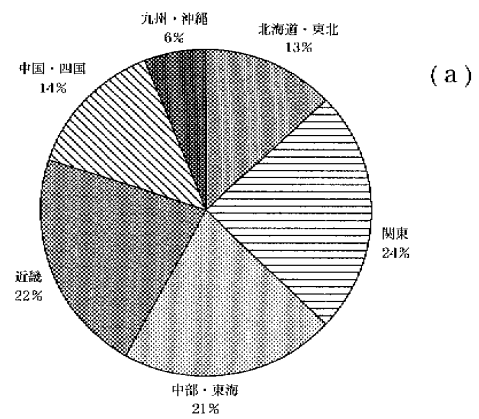
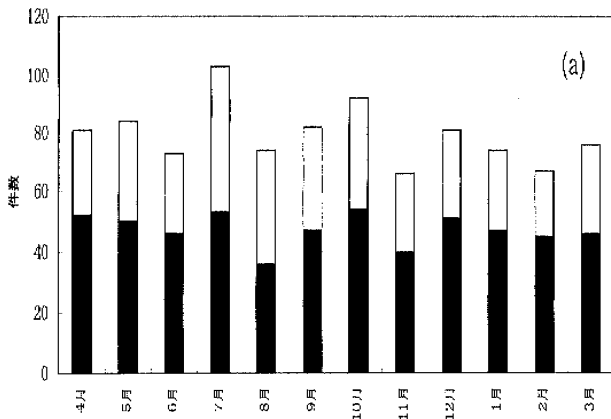


図1 保存環境に関する相談（平成9年度）
 (a) 相談件数 (b) 相談館数
 □ 美術館 ■ 博物館

図2 相談館の地域分布（平成9年度）
 (a) 相談館全体の地域分布
 (b) 平成9年度館内環境調査報告書提出館23館の地域分布

2. 平成9年度館内環境調査報告書提出館23カ所の傾向

借用時期の今年の傾向は、開館から10年以上経った施設が多かったことである(図3)。竣工から開館までの期間は、平均6.9ヶ月であった(図4)。開館時期については、例年通り、年度末～初めの春と、文化の秋が多かった(図5)。開館後10年以上経った施設の中には当初、公開施設となることを予想して設計されていない館も数多くあり、公開の要件を満たすために施設や設備改修が必要であった館も多く、調査期間が比較的長めで平均7.4ヶ月であった(図6)。昨年も述べたが、開館時に公開施設として建設されなかった施設については、借用する季節に合わせての調査が必要であり、本来ならば1年以上の調査期間を要すべきと考えている。

今年度は報告書提出館の中に当初から調査していて、しかも年度内に安定した環境になった施設が少なく(4館のみ)、コンクリート打設時期から環境がアルカリ性から中性になるまでの期間については集計しなかった。4館のデータは、15ヶ月(No.16)、17ヶ月(No.17)、19ヶ月(No.15)、19ヶ月(No.22)であった。

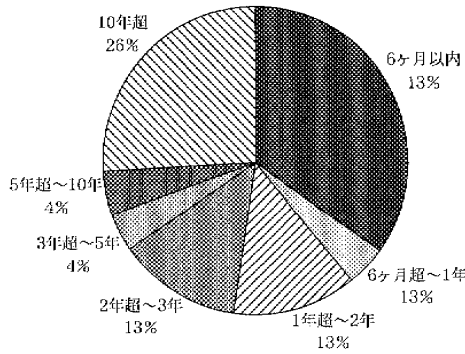


図3 開館から館内環境調査報告書を必要とする資料を借用するまでの期間

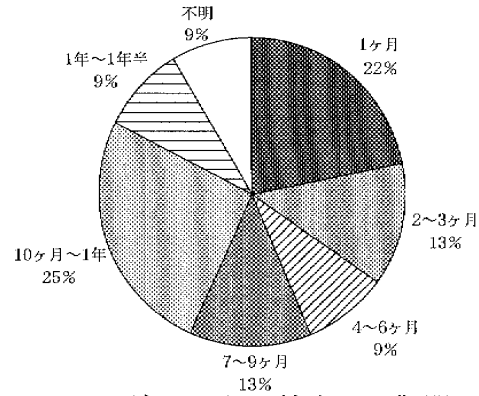


図4 竣工から開館までの期間

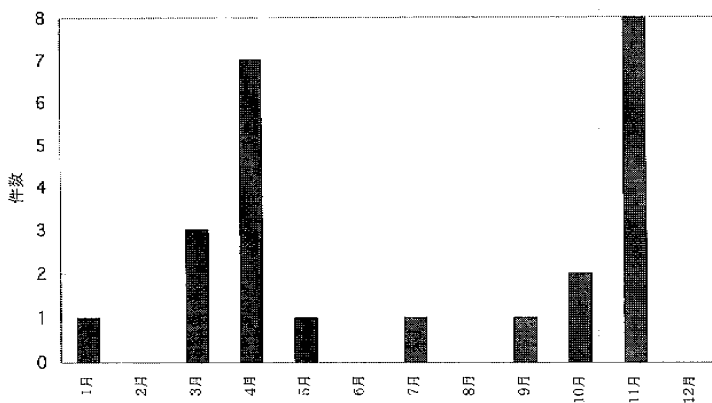


図5 平成9年度館内環境調査報告書提出館23館の開館月

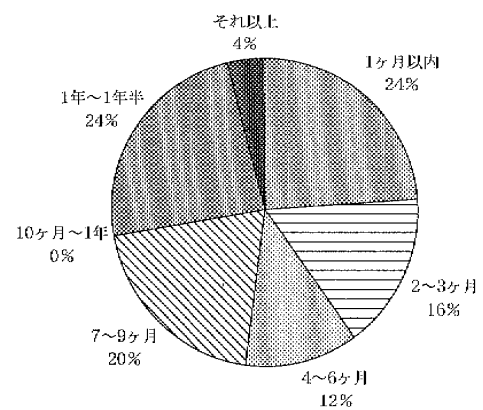


図6 環境調査期間

3. 考 察

今年度は昨年に引き続き、既存施設の転用・活用が多数計画された年であった。また中国・四国地方に公開施設が増える傾向も継続しており、公開の拠点が全国に広がった年でもあった。また、美術館からの問い合わせとそれに対する指導はめざましく増加しており、海外からの移動に伴う温湿度条件の調整方法やファシリティレポートの内容についての相談等、これまでにはない相談が増えた年でもあった。また従来の図書館、公文書館にも歴史資料として重要な文書・絵地図等が収蔵されているが、新館建築にあたり展示施設を持つ事例が増えつつあり、展示に適う設備を持たない場合も多く、注意が必要である。

博物館環境の調査の重要性に対する認識はかなり浸透し、また内容や手法についても雑誌や当紀要などから知識を得てからの接触が増えた。また新たに、建築設計事務所や建築資材、設備などのメーカーから直接質問を受ける事例も増え、直接の接触のない施設計画者から建築担当者が環境調査の依頼を受ける事例が増えていることは事実である。今後、環境調査の担当としては、環境調査の手法や評価基準についてより一般性を持たせ、手法を公開していく方向で計画している。

4. 終わりに

公開承認施設が徐々に増加しているが、事後届け出で重要文化財等の移動が可能であるということは、裏を返せば、資料の展覧会履歴や現在の状態が展示に適っているかどうかの判断、また当所がこれまで行ってきた保存環境調査に代わる施設設備に対する自主判断を、それぞれの館が

独自で行わなければならないという点で、高度な知識と豊富な経験を必要とする、すなわち大きな責任を抱えるということでもある。当所は、重要な役割を担う保存担当学芸員の育成を助けるという形で、この動きに協力していくつもりである。しかし保存作業そのものは、各地域の気候や資料の材質、収蔵量などの諸条件に配慮したきめ細やかな助言が必要であり、現状はその域に到底及ばない。各公開施設での資料管理担当の枠を越えた、各地域単位での保存管理専門官の配置を望んで止まない。

引用文献

- 1) 三浦定俊, 佐野千絵, 石川陸郎: 新設博物館・美術館等における保存環境調査の実際, 月刊文化財 (平成5年4月号), **355**, 34-42 (1993)
- 2) 佐野千絵, 三浦定俊: 国指定文化財展示公開施設のシーズニングについて—平成5年度展示公開施設の館内環境調査から—, 月刊文化財 (平成7年9月号), **384**, 4-11 (1995)
- 3) 佐野千絵, 三浦定俊: 展示公開施設の館内環境調査報告—平成6年度—, 保存科学, **35**, 74-79 (1996)
- 4) 佐野千絵, 三浦定俊: 展示公開施設の館内環境調査報告—平成7年度—, 保存科学, **36**, 98-103 (1997)
- 5) 佐野千絵, 三浦定俊: 展示公開施設の館内環境調査報告—平成8年度—, 保存科学, **37**, 153-157 (1998)

Annual Report of the Inspection of an Environment of Museums in 1997

Chie SANO and Sadatoshi MIURA

The Tokyo National Research Institute of Cultural Properties advises museums how they should design their facilities to have an adequate environment for exhibition of nationally designated cultural objects in collaboration with Agency of Cultural Affairs (*Bunkacho*). This report shows the results of inspection in 1997.

The number of advices were 983 in 1997. The results of inspection were reported to 23 museums in 1997 for their exhibitions. As the total number of newly-built museum was decreased in this year following the stagnant of Japanese economy, the exhibitions were often planned in the old museums built over ten years ago.